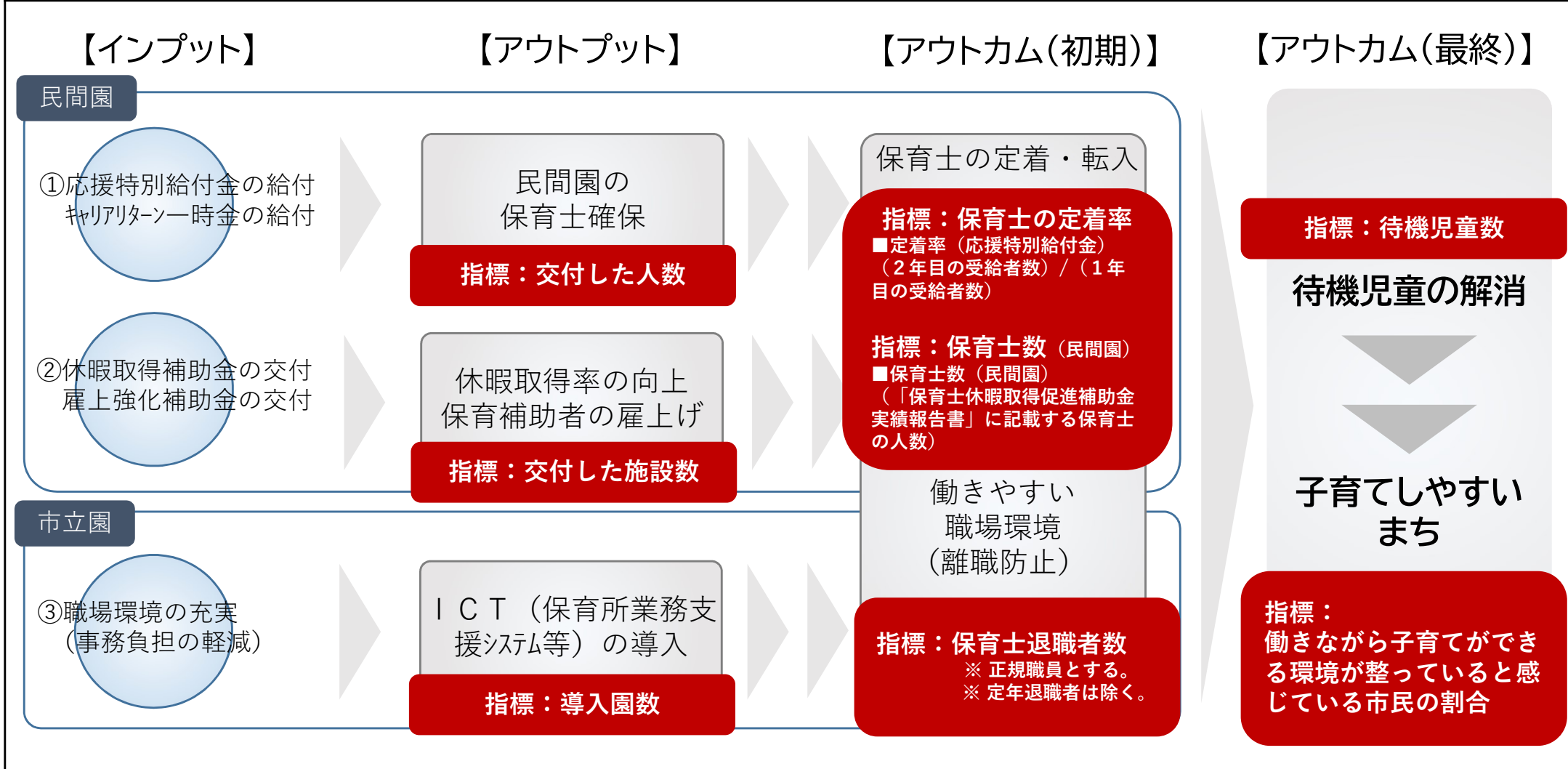


【R 6 年度】重点目標の取組・概要（待機児童対策及び保育環境の充実[教育・保育施設運営支援事業、保育所運営事業]）

担当課（内線）	子育て施設課（内線2767）	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上																									
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	ニーズに応じた保育や学童保育の量の確保を行う																									
現状と課題		課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）																										
・これまで本市では待機児童の解消を図るため、保育量の確保に向け取り組んできたものの、その解消には至っていない。 <table><tr><td>年度（4/1）</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>待機児童数</td><td>29人</td><td>27人</td><td>16人</td><td>25人</td><td>27人</td></tr></table> ・待機児童の早期解消を図りつつ、より良い教育・保育環境の充実に向け、取り組んでいく必要がある。		年度（4/1）	R1	R2	R3	R4	R5	待機児童数	29人	27人	16人	25人	27人	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・待機児童ゼロを達成し、「子育てしやすい岸和田」の実現を目指す。 ・「市立幼稚園及び保育所再編方針」に基づき、民間園との連携・協力しながら、より良い教育・保育環境の充実に向け取り組んでいき、子育て世帯の流入拡大・市民満足度の向上を目指す。 【成果に向けての各年度の進め方】※①②は民間園、③は市立園が対象 ①ア) 保育士の確保・定住促進に向けた補助の実施 ・「保育士応援特別給付金」「就職祝い金」 イ) 潜在保育士の確保・保育の質の向上 ・「キャリアリターン一時金」 ②ア) 保育士の休暇取得の促進 ・「保育士休暇取得促進補助金」 イ) 保育補助者の雇上げ ・「保育補助者雇上強化事業費補助金」 ③市立保育所事務のDX化を推進 ア) 保育所業務支援システム イ) 市立保育所勤怠・人事給与システム 【R 6 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ①市内の民間園に就職する保育士に対し、給付金を支給。 ②民間園に対し、働きやすい職場環境の実現に向けた取組を実施した場合、補助金を交付。 ③市立保育所に対し、システムを導入し、保育士の事務負担の軽減を図る。														
年度（4/1）	R1	R2	R3	R4	R5																							
待機児童数	29人	27人	16人	25人	27人																							
R 6 年度の事業費（内訳）																												
①新たに民間園に就職する保育士に対し、給付金を支給 ア) 保育士応援特別給付金、就職祝い金：33,130千円 イ) キャリアリターン一時金：1,000千円 ②働きやすい職場環境の実現に向けた取組を実施した民間園への補助金の交付 ア) 保育士休暇取得促進補助金：18,290千円 イ) 保育補助者雇上強化事業費補助金：87,742千円 ③保育士の事務負担軽減のため、市立保育所事務のDXを推進 ア) 保育所業務支援システム関連経費：25,982千円 イ) 市立保育所勤怠・人事給与システム：2,676千円 ※①②は「093300_教育・保育施設運営支援事業」 ③は「022900_保育所運営事業」																												
R 7 年度以降の想定事業費（ランニング経費）		取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い																									
(単位：千円) <table><tr><td></td><td>R7</td><td>R8</td><td>R9</td><td>備考</td></tr><tr><td>①</td><td>34,300</td><td>41,800</td><td>36,000</td><td></td></tr><tr><td>②</td><td>84,126</td><td>84,126</td><td>84,126</td><td></td></tr><tr><td>③</td><td>9,578</td><td>9,578</td><td>4,670</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>142,143</td><td>139,803</td><td>135,303</td><td></td></tr></table>			R7	R8	R9	備考	①	34,300	41,800	36,000		②	84,126	84,126	84,126		③	9,578	9,578	4,670		計	142,143	139,803	135,303		・保育所待機児童数（実績は4/1時点） 16名 [R3] 25名 [R4] 27名 [R5] → 0名 [R9] ・働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合(目指そう値) 18.1% [2022] →21.0%[2026]	①保育士応援特別給付金、就職祝い金 ・前期計画最終年度（R6年度末）で新規受付終了 キャリアリターン一時金 ・実施3年を目途に効果検証。 ②民間園への補助金 ・随時見直しを行い、事業効果の薄い補助金は廃止。 ③市立保育所DX化 ・今後も推進し、事務負担を軽減。
	R7	R8	R9	備考																								
①	34,300	41,800	36,000																									
②	84,126	84,126	84,126																									
③	9,578	9,578	4,670																									
計	142,143	139,803	135,303																									

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル （待機児童対策及び保育環境の充実[教育・保育施設運営支援事業、保育所運営事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

- 【財源】
- ・「保育補助者雇上強化事業費補助金」は、保育対策総合支援事業費補助金（保育補助者雇上強化事業）国：3/4
 - ・「保育士応援特別給付金」「市立保育所DX推進」は一般財源。今後、国・府の動向を見ながら、財源確保を図る。
※保育所ICTに係る導入経費は、デジタル田園都市国家構想推進交付金（国費）を活用済み。

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- ・ 待機児童ゼロを達成し、「子育てしやすい岸和田」の実現を目指す。
- ・ 「市立幼稚園及び保育所再編方針」に基づき、民間園との連携・協力しながら、より良い教育・保育環境の充実に向け取り組んでいき、子育て世帯の流入拡大・市民満足度の向上を目指す。

■ R6年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- ・ 保育士の確保・定住促進に向けた補助の実施
- ・ 潜在保育士の確保・保育の質の向上
- ・ 保育士の休暇取得の促進
- ・ 保育補助者の雇上げ
- ・ 市立保育所事務のDX化を推進

■ R6年度において実施・実現できたこと

- ① 新たに民間園に就職する保育士に対し、給付金を支給
 - ・ 養成校、保育就職フェア等で周知活動を行った。
 - ⇒保育士応援特別給付金：12,730千円（延べ180人）
 - ⇒就職祝い金：4,500千円（45人）
 - ⇒キャリアリターン一時金：200千円（2人）
- ② 働きやすい職場環境の実現に向けた取組を実施した民間園へ補助金を交付
 - ・ 民間園への周知活動・案内を行った。
 - ⇒保育士休暇取得促進補助金（30施設のうち30施設）
 - ⇒雇上強化事業費補助金（30施設のうち20施設）
- ③ 市立保育所事務のDXを推進
 - ⇒人事勤怠システムの導入（全13施設）
 - ⇒保育士タブレット等 77台増設

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R6年度実績値
○	保育所待機児童数	人	25（R4.4.1）	0（R9.4.1以降）	6（R6.4.1）
○	働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合	%	18.1（R4）	21.0（R8）	18.6
○	保育士の定着率	%	-	-	79.2（通算）
○	保育士数（民間園）	人	-	-	529
○	保育士の退職者数（市立園）	人	16（R4年度末）	-	12（R6年度末）

■ R6年度において実施・実現できなかったこと

- ・ポスター、チラシ、市のホームページ、保育士専門サイトの他、新たにインスタ等のSNSを活用し、保育士募集に関する広報活動を行ったが、職員採用に繋がらなかった。
- ・公立園においては、朝・夕の時間帯、土曜日に勤務可能な保育士の確保が出来ず、働きやすい職場環境づくりが出来なかった。

■ 課題分析

- ・広報活動は成果が見えにくいものの、様々な手段、機会を通じ、広報活動を行う必要がある。
- ・これまでの実績等を踏まえ、効率的かつ効果的な広報に取り組んでいく必要がある。
- ・保育士については、新規採用者だけでなく、潜在保育士を対象にした取組みも、今後必要である。

■ ロジックモデルの振り返り

- ・民間保育施設が令和6年4月に2園新設された（保育士の増）ことにより、待機児童数が大きく減少している。
- ・待機児童の減少に向けて、保育士の確保は不可欠である。引き続き保育士の確保、保育士の定着につながるよう、様々な手段により、働きやすい職場環境の改善を行う。
- ・「働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合」は、ほぼ横ばい状態であり、目標値を達成できるよう、引き続き目標の達成に努める。

■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・保育士の確保及び定着に向け、今後も取り組みを進めていく。
⇒民間園においては、国の動向を踏まえつつ、効率的かつ効果的な補助金の創設について、令和8年度に向け検討する。
⇒市立園においては、働きやすい職場環境の改善に努める。
⇒これらの取組みを実施し、まずは待機児童の解消に努める。
- ・上記の取組みを実施しつつ、国の動向も注視しながら、ロジックモデルのアウトカムの実現を目指す。